

2. 健康体育学科

健康体育学科では、さまざまなライフステージでの健康開発に寄与し得る指導者の養成を主な目的とし、健康・スポーツ科学の専門的知識・理論や技能を学修する。専門教育科目は、学部コア科目、基幹科目、展開科目、演習・実習科目、関連科目の5つから構成されている。それぞれの科目の特性は以下の通りである。

【学部コア科目】

人間開発学部の理念、目的を体現する中核的な教育科目群で、すべての学科共通の必修科目として配置されている。学際的視点によって構築される「人間開発」という本学部の中心理念の基礎理論や教育者・指導者の在り方を学ぶとともに、「人間開発」の基盤をなす本学の建学の精神に基づき「日本の伝統文化」の理解を図る。

【基幹科目】

健康・スポーツ・体育を学ぶ基礎となる生理学・運動学・体育原理・スポーツ心理学・栄養学が必修科目として配置されている。健康体育学科において基幹となる固有の教育科目群で、展開科目類への橋渡しとしての位置づけとなる。また、「人間開発」という視点からの健康・スポーツ・体育教育において必要不可欠な、教育現場で求められる実践的な資質・能力を開発するための教育学系の科目を多く配置している。それらは、中学校・高等学校保健体育教諭一種免許状を取得するために必要な教育課程及び教育指導に関する科目である。

【展開科目】

展開科目類を選択履修することによって、自己の個性と関心に合った分野を発見し、その専門性を高めることができる。また、どの展開科目類にも偏らない履修も可能である。

I 類「スポーツコーチング」

スポーツにおけるコーチの役割やコーチングの位置づけ、またスポーツに関する倫理を理解するとともに、さまざまな学問を通して科学的根拠に基づいたスポーツ指導について学ぶ。また、ジュニアスポーツやアダブテッドスポーツ、さらには運動を苦手とする人に対する指導方法も扱うなど、スポーツの指導者が備えるべき知識を学ぶことができる科目を配置している。

II 類「スポーツマネジメント」

組織やリーダーシップの理論を理解し、スポーツクラブの経営・運営やスポーツ企画の運営など、スポーツを通じた行政や地域との関わり方について学ぶ。スポーツ関連施設の経営者や地域社会におけるスポーツリーダーを目指す人が備えるべき知識を学ぶことができる科目を配置している。

III 類「ヘルスプロモーション」

対象者のライフステージに応じた健康の意義や身体活動・運動の重要性を理解し、健康の保持増進のための運動・スポーツ指導についてさまざまな学問を通して学ぶ。これからの社会に必要な健康づくりのための理論や実践力を身につけることができる科目を配置している。

IV 類「伝統と身体文化」

日本の伝統や文化を背景とした「生活」の見方や「身体文化」について学ぶ。日本の伝統文化と生活観についての知識を得るとともに、身体文化としてのスポーツの歴史やスポーツ文化、さらには武道文化について理解を深めることができる科目を配置している。

【演習・実習科目】

- ① 運動の指導力を養成する実習系の科目が集約されており、知識と技能を活用して運動課題を解決する能力を養う。具体的には、球技系・表現系・武道系の各分野を体験してその特性を知ることにより、さまざまな運動種目において人の動きの類似点や相違点を深く理解する。また、各分野から少なくとも一つを履修することにより、包括的な運動技能を身につけ、さまざまな指導法を開発する能力の育成を図る。
- ② 各学問領域に関する演習や実践的な実習により、専門教育科目の理解を深め実践力の育成を図る。
- ③ 3・4年次の演習と卒業論文の作成によって学修の総仕上げを行う。
- ④ 教員免許取得を目指す学生は「教育実習」がある。

【関連科目】

「人間開発」への取組みをより幅広く豊かなものにするための多様な科目を配置している。

【カリキュラムの構成と履修方法】

健康体育学科専門教育科目の構成とその履修方法は、次のとおり。

科目区分		卒業要件
学部コア科目		3科目 6単位 必修
基幹科目		5科目 10単位 必修 3科目 6単位 選択必修
展開科目	I類 (スポーツコーチング)	2科目 4単位 選択必修
	II類 (スポーツマネジメント)	2科目 4単位 選択必修
	III類 (ヘルスプロモーション)	2科目 4単位 選択必修
	IV類 (伝統と身体文化)	2科目 4単位 選択必修
演習・実習科目		2科目 6単位 必修 6科目 8単位 選択必修
関連科目		
合計		74単位以上

※1 卒業するためには、専門教育科目から74単位以上を修得しなければならない。なお、教育実習に関する科目は、要卒単位に含まれない。

※2 開講科目及び卒業要件の詳細は、P28～30のカリキュラム表を参照のこと。

※3 卒業論文の詳細は、P35・36を参照のこと。

※4 教育実習は選択制。2年次の履修登録時に、履修登録を行うこと。

※5 教職・資格課程の詳細は、第5章「教職課程」・第6章「資格課程」をそれぞれ参照のこと。

※6 基幹科目「ボランティアと社会参加」は、小・中学校教員免許状取得希望者に必須である「介護等体験」に参加するための前提となる科目である。

※7 演習・実習科目に開講されている各種「指導法実習」の履修条件は、同一種目の「運動方法基礎実習」が修得済みであること。なお、両科目の開講種目は時間割表を参照のこと。

【スポーツリーダー／水泳指導員／ジュニアスポーツ指導員／アシスタントマネジャー ／健康運動指導士（健康体育学科のみ対象）】

人間開発学部健康体育学科では、指定された科目の単位を修得することにより、①公益財団法人日本スポーツ協会から公認スポーツ指導者養成講習会の免除適応コースの承認を受けた「スポーツリーダー（スポーツ指導基礎資格）」の資格、②同「水泳指導員」認定試験受験資格、③同「ジュニアスポーツ指導員」認定試験受験資格、④同「アシスタントマネジャー」認定試験受験資格、⑤公益財団法人健康・体力づくり事業財団による「健康運動指導士」認定試験受験資格を取得することができる。

① スポーツリーダー（スポーツ指導基礎資格）【公益財団法人日本スポーツ協会公認】

公認スポーツ指導者には、スポーツ医・科学の知識を活かしてスポーツを「安全に、正しく、楽しく」指導し、その本質的な楽しさや素晴らしさを伝えていくことが期待されている。スポーツ指導基礎資格としてのスポーツリーダーは、地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる人材として位置づけられている。さらに、スポーツリーダーの資格取得後、任意で競技別指導者資格やフィットネス資格などへステップアップすることも可能である。

健康体育学科の学生は、指定された科目の単位を修得することによって、スポーツリーダー（スポーツ指導基礎資格）の資格を取得することができる。

② 水泳指導員【公益財団法人日本スポーツ協会公認】

水泳指導員は、水泳の専門知識を活かし、地域やスポーツクラブなどにおいて、子どもたちや初心者を対象に、個々人の年齢や性別などに合わせた水泳指導を行うための資格である。特に発育発達期の子どもに対しては、総合的な動きづくりに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導や、地域スポーツクラブな

どが実施するスポーツ教室の指導、施設開放における利用者への指導等が期待されている。

健康体育学科の学生は、指定された科目の単位を修得することによって、各都道府県水泳協会などの加盟団体が行う水泳指導員認定試験の受験資格を取得することができる。

③ ジュニアスポーツ指導員【公益財団法人日本スポーツ協会公認】

ジュニアスポーツ指導員は、発育発達期の身体的・心理的特徴についての専門的な知識と指導ノウハウを持ち、おおよそ2歳くらいの幼児から15歳までの子どもたちを対象に、安全で効果的な運動指導を行うことのできる指導者が取得する資格である。カリキュラムの中で、ジュニア期の総合的な身体づくりと基礎的運動動作の習得をサポートするための理論や実践方法を学することができる。

健康体育学科の学生は、指定された科目の単位を修得することによって、公益財団法人日本スポーツ協会主催の認定試験受験資格を取得することができる。

④ アシスタントマネジャー【公益財団法人日本スポーツ協会公認】

アシスタントマネジャーは、総合型地域スポーツクラブなどにおいて、クラブの運営に携わるクラブマネジャーを補佐し、クラブの運営のための諸活動をサポートするための資格であり、カリキュラムの中で、クラブ運営の基礎を学ぶことができる。

健康体育学科の学生は、指定された科目の単位を修得することによって、公益財団法人日本スポーツ協会主催の認定試験受験資格を取得することができる。

⑤ 健康運動指導士【公益財団法人健康・体力づくり事業財団】

健康運動指導士は、生涯を通じた国民の健康づくりに寄与する目的で創設された資格であり、民間の健康増進施設における運動指導のみならず、特定健診・特定保健指導における運動・身体活動の支援においても、その活躍が期待されている。具体的には、動脈硬化や心臓病、高血圧症、肥満などの生活習慣病の予防、健康の維持増進の観点から個々に対して安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成、さらにはこうした指導ができる医学的・運動生理学的な基礎知識を有した人材として求められている。

健康体育学科の学生は、指定された科目の単位を修得することによって、認定試験の受験資格を得ることができる。

受験上の注意

- ・スポーツリーダー（スポーツ指導基礎資格）、水泳指導員、ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャーにおいては、別途修了証明書の発行料が必要になる。
- ・水泳指導員、ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー、健康運動指導士の資格を得るためには認定試験を受験（有料）する必要がある。
- ・健康運動指導士の科目においては、別途受講料（実費）を必要とする場合がある。

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法
				1	2	3	4	
学部コア科目	人間開発基礎論 (人間力育成の人間学)	半期	2	○				6単位必修
	教職論	半期	2	○				
	日本の伝統文化	半期	2		○			
基幹科目	生理学	半期	2	○				10単位必修
	運動学	半期	2	○				
	体育原理	半期	2	○				
	スポーツ心理学	半期	2	○				
	栄養学	半期	2	○				
	運動生理学	半期	2	○				6単位選択必修
	教育の原理	半期	2	○				
	教育課程論	半期	2	○				
	発達と学習	半期	2			○		
	臨床教育学	半期	2			○		
	学校・学級経営論	半期	2			○		
	教育の方法と技術	半期	2				○	
	道德教育の理論と方法	半期	2				○	
	特別活動の理論と方法	半期	2				○	
	教育相談	半期	2				○	
	教育と社会	半期	2	○				
	生徒指導	半期	2			○		
	安全教育	半期	2			○		
	ボランティアと社会参加	半期	2	○				
	保健科教育法Ⅰ	半期	2			○		
	体育科教育法Ⅰ	半期	2			○		
	保健科教育法Ⅱ	半期	2			○		
	体育科教育法Ⅱ	半期	2			○		
学校保健	半期	2			○			
衛生学・公衆衛生学	半期	2			○			
救急法	半期	2		○				
授業アセスメント論	半期	2				○		
展開科目	I類 (スポーツコーチング)	運動技能未開発者の指導	半期	2		○		4単位選択必修
		アダプテッドスポーツ	半期	2		○		
		スポーツ医学	半期	2		○		
		スポーツ栄養学	半期	2		○		
		メンタルヘルス	半期	2		○		
		体力トレーニング論	半期	2		○		
		スポーツの倫理	半期	2		○		
		コーチング論	半期	2		○		
		コンディショニング	半期	2		○		
		ジュニアスポーツ指導論	半期	2		○		
	II類 (スポーツマネジメント)	スポーツ行政論	半期	2			○	4単位選択必修
		組織・リーダーシップ論	半期	2			○	
		体育社会学	半期	2		○		
		スポーツと法	半期	2		○		
		体育スポーツ経営学	半期	2			○	
		スポーツクラブマネジメント論	半期	2		○		
		スポーツビジネス論	半期	2		○		
		地域スポーツ概論	半期	2		○		

(次ページに続く)

科目区分	授業科目	開講	単位	開講学年				履修方法	
				1	2	3	4		
III類 (ヘルスプロモーション)	性別による身体特性	半期	2		○			4単位選択必修	
	健康管理論	半期	2	○					
	運動処方論	半期	2		○				
	摂食のしくみと食育	半期	2		○				
	青年期以降の健康と運動	半期	2		○				
	発育期の健康と運動	半期	2		○				
	地域社会と健康指導	半期	2		○				
	保健社会学	半期	2		○				
	IV類 (伝統と身体文化)	伝統文化と生活論Ⅰ	半期	2			○		4単位選択必修
		伝統文化と生活論Ⅱ	半期	2			○		
		武道の国際比較	半期	2	○				
		スポーツ史	半期	2	○				
		スポーツ人類学	半期	2		○			
		武道と所作・礼法	半期	2	○				
身体論		半期	2		○				
武道文化論		半期	2		○				
演習・実習	運動方法基礎実習球技系Ⅰ	半期	1	○				1単位選択必修	
	運動方法基礎実習球技系Ⅱ	半期	1	○					
	運動方法基礎実習球技系Ⅲ	半期	1	○					
	運動方法基礎実習球技系Ⅳ	半期	1	○					
	運動方法基礎実習表現系Ⅰ	半期	1	○				1単位選択必修	
	運動方法基礎実習表現系Ⅱ	半期	1	○					
	運動方法基礎実習表現系Ⅲ	半期	1	○					
	運動方法基礎実習表現系Ⅳ	半期	1	○					
	運動方法基礎実習表現系Ⅴ	半期	1	○				1単位選択必修	
	運動方法基礎実習武道系Ⅰ	半期	1	○					
	運動方法基礎実習武道系Ⅱ	半期	1	○					
	運動方法基礎実習武道系Ⅲ	半期	1	○					
	指導法実習球技系Ⅰ	半期	1			○		1単位選択必修 (履修に際しては、同一種目の「運動方法基礎実習」の単位修得が条件となります。)	
	指導法実習球技系Ⅱ	半期	1			○			
	指導法実習球技系Ⅲ	半期	1			○			
	指導法実習球技系Ⅳ	半期	1			○			
	指導法実習表現系Ⅰ	半期	1			○			
	指導法実習表現系Ⅱ	半期	1			○			
	指導法実習表現系Ⅲ	半期	1			○			
	指導法実習表現系Ⅳ	半期	1			○			
	指導法実習表現系Ⅴ	半期	1			○			
	指導法実習武道系Ⅰ	半期	1			○			
	指導法実習武道系Ⅱ	半期	1			○			
	指導法実習武道系Ⅲ	半期	1			○			
	運動生理学演習Ⅰ(神経・筋系)	半期	2		○			4単位選択必修	
	運動生理学演習Ⅱ(呼吸循環系)	半期	2		○				
	スポーツバイオメカニクス演習	半期	2		○				
	スポーツ心理学演習	半期	2		○				
スポーツマネジメント演習	半期	2		○					
スポーツ栄養学演習	半期	2		○					
スポーツ文化演習	半期	2		○					

(次ページに続く)

科目区分	授 業 科 目	開講	単 位	開講学年				履修方法
				1	2	3	4	
演習・実習	健康運動実習	半期	2		○			6単位必修
	ジュニアスポーツ指導実習	半期	2			○		
	演習	半期	2				○	
	演習・卒業論文	通年	4				○	
	野外実習	集中	1	○				
	スポーツ施設演習	半期	2			○		
	教育インターンシップ	半期	2				○	自由科目（要卒単位外）
	教育実習ⅠA（事前指導）	半期	1		○			
	教育実習ⅠB（事後指導）	半期				○		
	教育実習Ⅱ	半期	2				○	
	教育実習Ⅲ	半期	2				○	
教職実践演習	半期	2					○	
関連科目	人間開発学特殊講義	半期	2				○	
	統計と測定評価	半期	2			○		
	人間形成の心理学	半期	2				○	
	企業内教育Ⅰ	半期	2				○	
	企業内教育Ⅱ	半期	2				○	

○で示す開講学年で履修することが望ましいが、その学年以降であれば履修することができる。
ただし、履修学年が制限される科目もある。